

作成の目的

- ・ 研究開発関係者の共通認識を形成し、研究開発の効果的・効率的な推進に役立てる。
- ・ 研究開発に国費を投入するにあたり、施策の必要性や緊急性等の説明責任を果たす。

ロードマップに記載すべき事項

- ・ どのような社会ニーズに応えるための研究開発なのか
- ・ 社会ニーズに照らしたアウトカムと研究開発のアウトプットの目標
- ・ いつまでにそれらの成果を出す必要があるか
- ・ 産学官の連携、役割分担（NICTの役割、民間の役割、国の支援が必要なフェーズ）
- ・ 規制面等での課題、国際展開に向けて取り組むべき事項

留意点

- ・ 社会へのアウトプットがイメージしやすい粒度とするよう工夫が必要ではないか。
- ・ 個別の研究開発課題について、課題間の関係等も留意すべきではないか。
- ・ 社会ニーズが顕在化しており、かつそのタイムフレームがある程度明確に記述できる場合は、社会ニーズと研究開発目標を時間軸上でリンクさせると説得力があるのではないか。
- ・ 一方、セキュリティ分野のように常時発生する可能性のある脅威に対応すべき分野や、先端技術のように現時点で社会ニーズが必ずしも特定されていない分野については、別の提示方法を考える必要があるのではないか。

ロードマップイメージ

〇〇プロジェクト

国が研究開発支援

民間主体の取り組み

2010	2015	2020	
社会ニーズ	【資源・環境】情報通信システムの低消費電力化 (ネットワーク上のトラフィックの爆発的増大及びICT機器の消費電力増大に対処するため、トラフィックの効率的分配やICT機器の省電力化などにより、データセンターやICTネットワークシステム全体の消費電力を削減する。)		
社会ニーズに照らし合わせたアウトカム目標(社会への定量的なインパクト)	201x年までにCO2 △△トン削減		
研究開発のアウトプット目標			
①低消費電力ルーター	基礎技術開発	実用化	伝送速度10倍 消費電力1/3
②ネットワーク制御技術	基礎技術開発	実用化	NW消費電力 25%削減
③……技術	基礎技術開発	実用化	...
制度面等で克服すべき課題			
国際展開戦略	(国際連携をする国や標準化機関等を具体的に記載)		